

# 論壇

## 引きこもりの子供救済

先日、長野県の飯田市に行く機会があった。市長の牧野光朗氏のご好意で、当地の農家民宿で夕食をいただく機会に恵まれた。飯田市役所のある中心地から車で30分以上も離れた山の中にあるような場所だった。田舎の良さが満喫でき楽しい時間を過ごすことができた。

長野県の下伊那地区は、遠江と昔から人の交流が多い地域である。農家民宿のおかみさんの言葉は、子供の頃に菊川で聞いた祖父母の言葉にそっくりであった。言葉の近さもあつたのか、非常にリラックスする時間を過ごすことが

伊藤 元重 (国際経済学) 学習院大教授

できた。

この民宿のおかみさんは、地域の引きこもりの子供を預かる活動をしているという。飯田市でも引きこもりになって不登校になる子供がいる。子供の頃の親のDV(家庭内暴力)などが原因となって部屋に引きこもる。部屋ではゲームばかりやっており、昼と夜がひっくり返る。学校にもほとんど出ない。

そんな子供たちを、先生がなんとか努力して、この農家民宿に連れてくる。おかみさんの言葉を借りれば、「最初は引きこもった願をして自分の殻にこもっている」そうだ。そうした子供たちに農作業をしてもらったり、おばあさんに

## 生命力を引き出す農家民宿

編み物を教えてもらったりする。そんなことをしているうちに、子供たちの表情にも変化が出てきて、そのうちに笑みが出てくるようになる。

実際には、そんなに簡単なことではないのかもしれない。自分の中にもってしまつた子供の心を開くことはそんなに簡単なことではないだろう。ただ、市長や市役所の方の話を聞いても、この農家

民宿は子供たちを引きこもりから救う上で大きな貢献をしてきたようだ。

学生村に行った記憶がある。農家にみんなで寝泊まりするだけだから、費用は非常に安い。10日くらい宿泊した記憶がある。もぎたてのトマトが非常においしかったことを覚えている。学生村に集まつた他の大学の学生の人たちと一緒に、近くの川に釣りに行ったこともある。東京という大都会の学生であった私にとって、一夏の信州の体験は貴重なものであった。

話を引きこもりの子供のことに戻そう。私の知り合いで、いじめで子供が苦しんでいるのを救うため、信州の田舎の学校に1年間内地留学させた人がいる。都会の学校の中でいじめにあったのだが、田舎の全く違った環境に子供を移

## 都会と田舎との行き来

また機会があれば、ぜひあの飯田の農家民宿に行ってみたいと考えている。近くの畑でとれた野菜や手作りのどろろくのおいしいこと(ここはどろろく特区だそう)。この年になると、こうしたことが、最高のせいだくに思える。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。